

再生医療

心臓病と たたかう

治療研究の最前線 ②

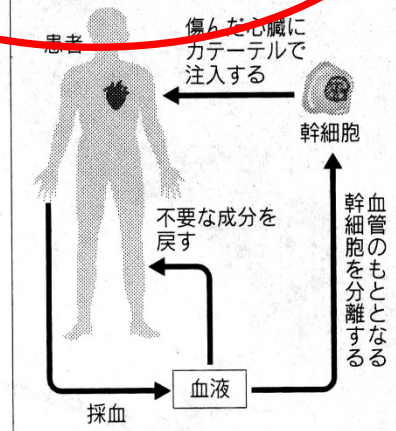
今年の夏、胸の痛みを訴える六十代の女性が武田病院（京都市）に搬送された。心臓の働きが一瞬は向上された。心臓の血管が詰まる急性心筋梗塞（こうそく）。直ちにカテーテルで血管を広げる治療を受けた。

患者は京都府医大での治療後、武田病院で約二週間過ごし、退院した。伊藤一貴・武田病院循環器センター部長は「従来の治療が成功しても、弱った心臓は心不全を再発しかねない。再生医療は心臓の動きを正常な状態にぐっと近づける」と期待を語る。

普通はこれで治療を終えて退院を待つが、女性患者は重症で京都府立医科大学に入院。血液から血管のもととなる幹細胞を採取し、傷んだ心臓に移植する再生医療を受けた。松原弘明教授は一幹

血管再生

血管の成長を促して急性心筋梗塞を治療する仕組み



血中細胞使い

血管に迂回（うかい）路を設けるバイパス手術があるが、心筋が壊れると最悪の場合、心臓移植が必要になる。だが移植実施例は少ない。心臓の組織をよみがえらせる再生医療への関心は高い。

再生医療では血管を作る治療研究が先行。日欧米で患者に応用する研究が始まったが、ここにきて成果が相次いでいる。埼玉医科大学は八月、急性心筋梗塞患者が補助人工心臓を外せるまでに回復した」と登り二日には信州狭心症の串戻った」と報

伊藤一貴・武田病院循環器センター部長は「従来の治療が成功しても、弱った心臓は心不全を再発しかねない。再生医療は心臓の動きを正常な状態にぐっと近づける」と期待を語る。

再生医療は心臓の動きを正常な状態にぐっと近づける」と期待を語る。

再生医療



再生医療：
未分化な幹細胞をカテーテルを介して梗塞心筋に注入している。

Intracoronary Transplantation of Non-Expanded Peripheral Blood-Derived Mononuclear Cells Promotes Improvement of Cardiac Function in Patients With Acute Myocardial Infarction

PBMNCs Improve Cardiac Function in AMI

1203

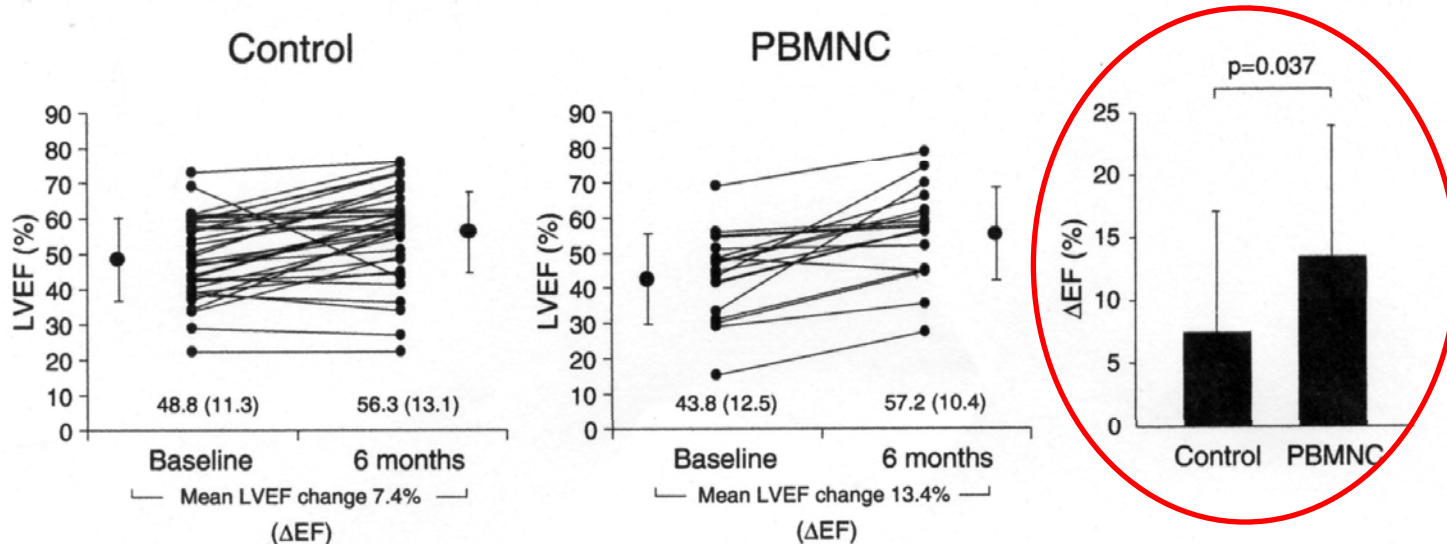


Fig 1. Global left ventricular ejection fraction (LVEF) at baseline and 6 months' follow-up, and the absolute increase in LVEF (Δ ejection fraction (EF)) in the control and peripheral blood mononuclear cell (PBMNC) groups. Small dots show data for individual patients; large dots show mean values. Vertical bars show SD.